

2017年6月
1121号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

歴史を学び、事実を知り、未来を切り拓く ～心に伝え、後世へ語り継ぐ、“語り部”に～

6月11日、櫻華塾を開催。6月18日は父の日、藤澤さん(会長付き)が真心から用意して下さった手作りの薔薇のコサージュを一冊の会の偉大なる『父』尾崎行雄先生へ。毎月使用させて頂いている憲政記念館内尾崎行雄記念財団の応接室にある尾崎行雄先生の肖像画に皆で感謝。最敬礼の想いで拍手を送りました。

その後、何時も私達を温かく支援し、優しく指導して下さいる石田理事長、今年のレソト王国両陛下晩餐会では会場責任者として御活躍下さった深川さんにも日頃の感謝を込めて黄色い薔薇のコサージュを胸元へ若手メンバーがお付けしました。石田理事長も深川さんも先月の母の日に続き、サプライズ父の日のプレゼントに『これからも父として男性として益々精進して母、女性を支えていきたい』。櫻華塾開催に先立ち応接室に皆の明るい笑顔が溢れました。

アフリカデー ～手を取り合って更なる未来へ

アフリカが一つに、紛争のない平和な社会を目指して設立されたアフリカ連合(AU)。今年は初の試みとして学生と共に企画された1週間、「上智大学アフリカ・ウィーク」が開催され、大成功を収めました。アフリカデーである5月25日に開催されたレセプションには大槻会長、小山副会長そして若手のホープ山内さんが石田理事長の代理として参加しました。各国のアフリカ大使のスピーチに続き、各アフリカ地域のおもてなし料理、民族音楽の演奏に皆さん大拍手。

今年1月に加盟国が増えアフリカ連合は55カ国となりました。私たち一冊の会としても、レソト王国友好協会、タンザニア共和国友好協会を更に発展させていく為に、アフリカの国々と手を取り合って、同じ目線そして同じ想いの中で今後も協力し、一冊の会の活動と共に発信して参ります。また当日は濱本アフリカ第二課長ともご挨拶が出来ました。

10月4日はレソト王国のナショナルデーです。支援を続けている一冊の会も一緒にお祝いを致します。レソト王国と一冊の会との新たな輝かしい未来の為に大成功を収めましょう。皆で決意を固めました。



アフリカ各国のお料理

プロジェクトX” 女たちの10年戦争 「男女雇用機会均等法」誕生 “

2000年12月、NHKで放映された“プロジェクトX 女たちの10年戦争「男女雇用機会均等法」誕生”を改めて鑑賞しました。一冊の会筆頭最高顧問の赤松良子先生が産みの親である男女雇用機会均等法制定までは、多くの女性の壮絶なる長い闘いがありました。

先生の心にある強靱な意志と時代の闘いに挑む姿に強く胸が打たれました。『小さく産んで、大きく育てよう』その言葉の深さ、本当の意味を感じ取った時、目頭が熱くなり、涙が溢れました。まさに「痛い想いをして出産をし、生涯の幸福を後世へと継承していく」という【親】そのものです。

鑑賞した男性若手メンバーの中本さんから感想が届きました。

プロジェクトXを鑑賞して。男女雇用機会均等法を作られた赤松先生たちは、家庭や子供よりも仕事を優先して挑戦されていた。労働省局長の気構え、誰よりも働き、経済界のリーダーや国との折衝を重ねられ、辛いことも表に出さないプロ根性。更に当時は、女性は結婚したら退職、家庭を最優先にするという価値観であったことを認識し、赤松先生の仕事に対して感謝の想いでいっぱいです。先生は、均等法を「みにくいアヒルの子」と例えられ、リーダーとしての責任ある姿に感動しました。リーダーとしての在り方を、先生たちの働き方から学ぶことが出来ました。息子さんと一緒に映像に接し、子育てしながら挑んだ先生に今更の如く胸が熱く感謝の想いでいっぱいになりました。事務所にある赤松先生の写真に最敬礼。2000 年末より先輩達が繰り返し勉強してきたプロジェクト X。今回初めて見た私は皆とは大きな遅れがあることを肌で感じました。自分の襟をただし、一冊の会の一員らしく、勉強して参ります。

さあ、今こそ万葉に学び、新しい時代を築こう！

戦後、本がまだ貴重な中、読み聞かせの活動から始まった一冊の会。今年 52 年を迎え、その活動も多岐に渡ります。すべての活動を通じて共通しているのは、「歴史、経験を学び、自ら考え、真心で行動し、新しい未来を切り拓いていくこと、そして活動を後世へと伝えること」。一冊の会の活動を報告する【万葉】も今回で 1121 号を迎えました。52 周年を迎え、第二期の櫻華塾を開始した今だからこそ万葉の創刊号を原点に学ぶ姿勢の大切さを痛感しています。

箱根常任参事からは、永久最高顧問である相馬雪香先生、園田天光光先生が万葉創刊に賛同して寄せて下さった「発刊の辞」について感想がありました。

続いてヤングメンバーも創刊号を読んで感じたことを積極的に発表。アフガニスタン編について瀧川研究員補から感想があり、園田天光光先生のお名前から 1 文字いただいた「光グループ」として一冊の会で学んでいる赤田研究員補は、中国との国交正常化交渉の際に、園田元外務大臣の並々ならぬ決意と緊張感があったことを知ったという感想を述べられました。

次世代へ一冊の会の想いを継承する万葉。時代と共に発信方法は変わり、情報や報告をいち早く！と、今はインターネットで即座に世界へと発信しています。同じく「赤松良子世界インターネット配信」も生放送から、録画したものを配信することによって世界中どこにいても時差を気にせず自分の都合の良い時間で見られるようになりました。そして最新の発信方法としてフェイスブックを活用し、そして今一冊の会では東日本大震災被災者の貴重な体験を後世に語り継ぎ風化させないという想いで「語り部」運動を開始しております。

8 月 13 日には赤松良子一冊の会筆頭最高顧問の米寿をお祝いする会を致します。
今までの学びを活かし、大成功させましょう！

—歴史を学び、事実を知り、
後世へ発信して参りましょう—

文責：一冊の会研究員補 城杉 清佳

編集：赤田 協力：平間



万葉創刊号と共に (撮影・山内さん)

*記念撮影はいつも最後ですので仕事で先に退席された方はいつも映らずごめんなさい